

(別紙様式)

教科用図書調査に関する報告書

教 科	国 語
-----	-----

発行者 の略称	教 科 書 名	選定委員会から付された意見
東 書	新しい国語 1 新しい国語 2 新しい国語 3	・ 1年 P36「飛べかもめ」などは、思春期の生徒にとって、よい題材という印象を受けた。 ・ 1年 P106「根拠を挙げて考えを述べる」の次に「根拠を明確にして書こう」があり、論理的思考力の育成に重点が置かれている。 ・ 教材の冒頭に問いが明示され、学習のめあてを意識しやすい。 ・ D マークを活用し、文法の導入をゲーム感覚で解くことができ、説明もあるので、苦手な生徒には取りかかりやすくなっている。 ・ 国語が苦手な生徒にとっては、絵や漫画がカラフルで、興味が引き立てられそうな感じがする。 ・ 漫画は、不必要だと思う。漫画が 1 ページに渡って所々にあるのは、読みにくい。漫画にどうしても注意がいつってしまう。 ・ 表紙は素晴らしいが、テーマの幅が狭い。 ・ 1年のはじめの教材「話し方はどうかな」は、字が大きく、小学校からのつながりがみられるが、小学校から中学校につながっていく内容として、これを挙げる必要があったのか疑問に感じた。 ・ 2年の P50「敬語」や P146「依頼状やお礼状を書こう」は、実用的だが構成がわかりにくく、もう少し工夫が必要である。
三省堂	現代の国語 1 現代の国語 2 現代の国語 3	・ 2年 P200「走れメロス」などの基本的な教材、AKB の歌詞を扱った教材、冒頭に宇宙に思いを馳せる教材など、文章で興味を惹くよう工夫されている。 ・ P. 296「手紙・はがき・メールの書き方」は工夫されている。 ・ スピーチ、プレゼンなどを段階的に取り入れ、特に、グループディスカッションは 3 年間を通して設定されており、表現力の育成に力を入れている。 ・ 3年 P103「多角的に見る」では、イラストがあり、イメージしやすく、気付きを与えられる。 ・ 3年 P44「間の文化」は、切り口が建築、音楽や芸能など多岐にわたり、龍安寺の石庭など、思春期の感受性が豊かな子どもの才能を伸ばすような広がりを感じられる。 ・ 1年古文では、「月」に対する心が非常に丁寧に書かれている。 ・ 古典の教材が丁寧に記載されているような印象をもった。 ・ 3年 P108「和歌の世界」では、万葉集・古今和歌集・新古今和歌集の解説は、わかりやすく、興味がわくようになっている。

		・地域に対する愛着という視点で「ヤマトタケル」のことが取り上げられている。 ・教科書の使い方のガイダンスにある中央の青い矢印に「主体的・対話的で深い学び」とあるが、教師側の言葉ではなく、生徒にわかるように表示してほしい。 ・視覚教材を使った指導は必要なので、画像や Web を使った学習が設定されていないというところに少し難を感じた。 ※選定委員から採択にふさわしい教科書との意思表示があった。
教 出	伝え合う言葉 中学 国語 1 伝え合う言葉 中学 国語 2 伝え合う言葉 中学 国語 3	・ 1 年 P6、P7 で、SDG s を取り上げ、教材がどの内容と関連しているかを示し、現代的課題に対応している。 ・ 昔話の「桃太郎」や「浦島太郎」が古典の導入とされており、生徒にとっても興味を惹くものになる。 ・ 共通している教材である 1 年 P255 「少年の日の思い出」の「みちしるべ」のコーナーにある、「なぜだろうか」の問いが読みを深めて学びを深める内容になっていない。他の出版社では、「どのような意味を持つ行為か」や「言葉に着目して、行動の意味を考えよう」など、読みを深めるための手立てがきちんと示されている。 ・ 2 年 P137 古文で原文の左右に口語訳や現代仮名遣いが書いてあるというのは、見にくいと感じた。 ・ 漢詩の取り扱いが 3 年になっている。他は 2 年で扱っている。
光 村	国語 1 国語 2 国語 3	・ 1 年 P46 「ちょっと立ち止まって」では、「だまし絵」を取り上げ、興味を惹き、文章に引き込まれていく工夫がされており、評価できる。 ・ 言葉の由来や変化を取り上げたページが非常に多く、言葉に対する興味を持ちやすい教科書である。 ・ 3 年の共通した教材、P113 魯迅の「故郷」の「学習の手引き」では、考え方の手続きがきちんと説明されている。他の出版社と比べてみると、読みの部分に重点を置き、思いをもって教科書を編集していると感じた。 ・ 各都道府県の中で、自分の地域はどうだろうかという視点で書かれている教材があり、地域への愛着を育むことにつながる。 ※選定委員から採択にふさわしい教科書との意思表示があった。